

きょうの紙面

公立中で「がん教育」17 予防や早期発見啓発

がんについて理解を深める「がん教育」のモデル授業が県内の公立中学校で実施されている。県独自の教材を使い、予防や早期発見の大切さを学んでいる。



課題解決の高層住宅 13



2人は自主性尊重の教育者 22
飛鳥II、初の南極へ 17
ホンダ、空へ本格進出 12
産業スパイ捜査で新ポスト 22

総合 2・3 経済・商況 12~14
読者 4 地域・広域 16~19
文化・釣り 5 TV解説・ラジオ 20
スポーツ 8・9・11 社会 22・23

震災「だし」に改憲



改憲論議に「緊急事態条項」の新設が浮上。政府・与党は必要と訴えるが、多くの弁護士会は「不要」と反論する。

軽減税率菓子、飲料

自公大筋決着 財源1兆円規

消費税率を10%へ引き上げる際の軽減税率制度に関する自民、公明両党の協議が10日、大筋で決着した。2017年4月の導入時から、生鮮食品に加工食品を加えた食品全般の税率を8%に据え置く方針。菓子類や飲料も除外せず、必要な財源は約1兆円に上る。財源や細かな線引きを詰め、11日中の正式合意を目指す。対象拡大に慎重だった自民党の幹部は「大きな方向転換があった。少し時間がかかる」と記者団に語った。

法人税、2割台で了承

自民、公明両党の税制調査会は10日、消費税率の軽減税率制度を除く2016年度税制改正大綱を了承した。法人税の実効税率を16年度は29・97%に、18年度には29・74%へ引き下げる企業への配慮を示し、地域の活性化に結びつく施策にも重点を置いた。

強い雨最大1.5倍

80年以降 県内、進む「極端化」

県内で1980年以降の約30年間に強い雨の降る時間が最大で50%近く増加していることが、横浜国大の筆保弘准教授（気象学）



らの分析で分かった。横浜や箱根など10地点の雨量データを10年ごとに調べたところ、1時間10ミリの強雨の時間が9地点で10〜50%ほど増加。より弱い雨を含めた降水全体の時間は軒並み減少しており、災害などのリスクを高める「気象の極端化」が進む現状が浮き彫りになった。この間、横浜の平均気温も上昇して

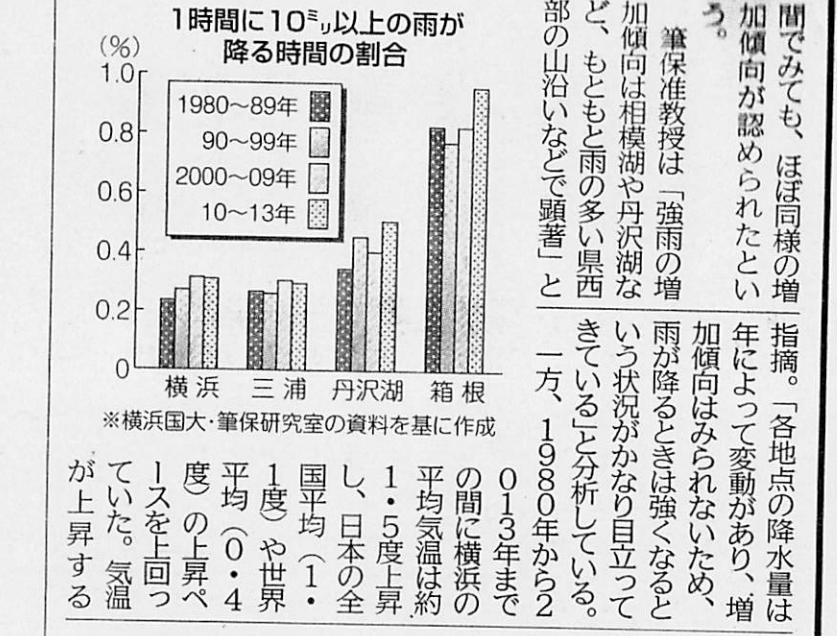
不毛 不毛

野坂昭如さん死去 85歳 「焼け跡闇市派」、鎌倉市出身



野坂昭如さん 1986年4月

率を変え、普通車の場合購入価格の0.3%の4段階とした。自治体の税収を確保する一方、自動車販売が落ち込まないよう、同時に廃止される自動車取得税



間でも、ほぼ同様の増加傾向が認められたという。筆保准教授は「強雨の増加傾向は相模湖や丹沢湖など、もともと雨の多い県西部の山沿いなどで顕著」と指摘。「各地点の降水量は年によって変動があり、増加傾向はみられないため、雨が降るときは強くなるという状況がかなり目立ってきている」と分析している。